

心豊かな「すてきさん」づくり ～ えがお・げんき・あいさつ～  
かんがえ、やってみる子 いたわり、助け合う子 せいっぱいがんばる子 いきいきと元気な子

小林教頭が重手で作った  
くろくぐら



開成町立開成幼稚園

# たいよう通信

第7号

発行日：令和6年12月4日（水）

発行者：園長 杉山 孝史

## 2学期のまとめです

今年も残すところ1か月となりました。暦の上ではとうに冬入りしていますが、昼間は上着なしで過ごせるぐらいの小春日和の陽気です。ただ、朝晩は冬の寒さを肌で感じます。季節の変わり目は、一日の寒暖差が大きくなります。また、空気が乾燥してくると風邪やインフルエンザなどの流行も気がかりです。体調などを崩さないよう十分にお気をつけください。



さて、幼稚園では2学期のまとめの時期に入ります。子どもたちと一緒にこれまでの遊びや生活を丁寧に振り返りながら、良かった点や反省点などを整理し、3学期へつなげていけたらと思っています。「えがお」いっぱい、「げんき」いっぱい、「あいさつ」いっぱいの心豊かな「すてきさん」づくりに向けて、今後も職員で力を合わせてまいります。引き続き、皆さまのご支援とご協力をお願いします。

## 開成幼稚園の保育公開

先週11月25日（月）～29日（金）までの一週間を「幼稚園見学ウィーク」として位置づけ、他の幼稚園や小・中学校の先生方に開成幼稚園を見学していただきました。また、11月26日（火）に



は、年長・ばら組の保育の様子を他園や他校の先生方に向けて公開しました。（左写真）この期間中、30人を超える先生方が来園され、子どもた

ちの遊びの様子や先生の支援の様子などを熱心に参観されました。「季節のものや工作に必要な材料や道具が整理されて置いてあり、自然と遊びが生まれ、仲間が集まり、遊びが広がる印象を受けました。子どもどうしの『かして』『いいよ』のやりとりや先生の『どこでやりたいの』などの声かけから、子どもの自主性を大切にされていると感じました。」このように、参観された先生方から肯定的なご意見をたくさんいただきました。

今年度、開成幼稚園では「幼児が共に育ち合うための環境構成や援助の工夫を考える」を研究主題として、毎日実践を積み重ねてきています。また、幼児教育に詳しい國學院大学・中野圭祐先生から、子ども主体の保育等について具体的にご指導をいただいています。共に育ち合う姿とはどのような姿なのか、子どもたちが主体的に生活を進め夢中になって遊ぶためにはどのような環境構成や援助が必要なのかなど、常に子どもたちを真ん中に置いて、保育の充実・向上を目指して引き続き取り組んでまいります。

## まっちゃんと遊ぼう！

つながりあそび・うた研究所の“まっちゃん”こと町田浩志先生を講師にお迎えして、11月14日（木）年長・年少親子の触れ合い遊びを楽しみました。まっちゃんが開成幼稚園に関わってから20年以上になります。当時園児だった田中教諭が、まっちゃんと遊んだことを今でも覚えているとのことでした。



まっちゃんが演奏するギターと優しい歌声に合わせて親子で身体を動かしたり、数名ずつのグループに分かれて自己紹介をし合ったり、大きな円になってグルグルと走り回ったりなど、親と子、そして保護者どうしも楽しい時間を過ごしました。

最後に我が子を抱っこしたお父さんやお母さん、そして子どもたちに向けて、まっちゃんからメッセージが送られました。「いっぱい子どもを抱っこしてあげてください。年をとったら今度は子どもにだっこしてもらうんだよね。子育てをがんばり過ぎない。困ったらだれかを頼ってください。」「子どもたちは、ゆっくり大人になればいい。大人もたくさん失敗して大きくなったんだよ。」心に響くメッセージに思わず目頭が熱くなりました。幸せな安らぎの時間をプレゼントしてくれたまっちゃんに感謝です。ありがとうございました。

## 開成弥一芋を収穫

年長の子どもたちが県立吉田島高校の先生に教えていただきながら育ててきた弥一芋を、11月22日（金）ついに収穫しました。この日は、多くの保護者ボランティアさんとともに、開成町の山神町長さんや石塚教育長さんも参加されました。はじめに高校の扇野先生から掘り方の説明を聞いた後、数名ずつのグループに分かれて里芋の株を掘り起こしていきました。夏が暑かったせいでしょうか、芋の背丈や葉っぱが昨年よりかなり小さくて心配しましたが、どの株にも里芋がしっかり付いていました。子どもたちも、そして大人も実りの秋を満喫しました。



この日に収穫した里芋は、合わせて54kgもありました。大きな親芋は来年の種芋用として大事にとっておき、子芋は給食でおいしくいただくことになりました。1回めは11月29日の「弥一芋のそばろ煮」、2回めは、年長児の投票により決まった



「チキンチキン弥一芋」を12月4日にいただきました。（左写真＝チキンチキン弥一芋を味わう年長児）弥一芋を通して、子どもたちは味覚の秋も満喫しました。

## ハンドメイキングを楽しむ

ぞう組の保護者・岩橋春菜さんをお願いをして、11月25日（月）に「ほのほのタイム」をツバメルームで開催しました。当日は、全体で13名の方々にご参加いただき、笑顔でおしゃべりをしながら、編み棒などの用具を一切使わないハンドメイドの編み物を楽しみました。

途中から数名の子どもたちが加わってきました。はじめは編み方に戸惑っていましたが、すぐにコツをつかみ自分だけのオリジナル作品を仕上げていました。翌日、編み方を習った一人の子は、わくわくタイムの中で、嬉しそうに編み方を友達に教えていました。



「すごく楽しかったです」「ぜひ、第2弾、第3弾とやってほしいです」参加されたお母さんからこのよ

うな感想が聞かれました。趣味を持つことは、ストレスの解消になり心身ともにリラックスできます。また、趣味を通じて交友関係も広がります。さらに、家族や仲間と趣味を楽しむことでお互いの絆を強くし、心身の健康を向上させる効果も期待できます。たまには、仕事や家事を忘れてのんびりと趣味に没頭するのもよいものです。岩橋さん、貴重な機会をありがとうございました。



### 魔法の言葉



▼真っ青な秋の空のもと、今日も大勢の子どもたちが、園庭のあちらこちらで遊んでいます。その中に十人以上の子どもの目まぐるしく動き回っている集団があります。ドッジボールに興じる年長の子どもたちです。ドッジボールは、ルールが簡単で分かりやすく、ボールを投げたりとったり、当たらないように逃げ回ったりなど、面白さがたくさん詰まった集団遊びです。小学生にもとても人気があります。今、年長の子どもたちは、毎日のようにドッジボールを楽しんでいます。▼ゲームや試合には、勝ち負けが付きものです。誰でも、勝てば嬉しいし、負ければ悔しい気持ちになります。負けたとき、人は様々な行動をとります。不甲斐なきに涙を流す人もつやるものかとその場を立ち去る人、悔しさを相手にぶつける人など、行き場のない感情に振り回されます。もちろん、ぐっところえて再起を心に決めることだってあります。▼ある小学校の授業を参観したときのことです。この日の目標は、子どもたちがソーシャルスキル（社会技能）を磨くというものでした。ゲームをして負けたときに「まあ、いいか」という言葉をつぶやくことで、その事実を受け入れるというものでした。負けた子の気持ちになって、私も試につぶやいてみました。「まあ、いいか、次がんばれば」実験ではないものの、気持ちがスッと楽になりました。「まあ、いいか」は悔しさや怒りの気持ちを抑える魔法の言葉なのかもしれません。▼怒りの感情をコントロールする技法の一つにアンガーマネジメントがあります。ゆっくりと深呼吸をする、一時的にその場を離れる、音楽を聴いたり運動をしたりしてリラックスさせるなど、その方法は様々です。特に自分に余裕の無いときほど、人は感情が高ぶる傾向があるようです。安定した社会生活を送るためには、一時的な感情に左右されることなく気持ちを上手くコントロールすることが重要です。さて、あなたにとって、心の安らぎを招く魔法の言葉は何ですか。